
特別講演

演題

オンライン授業のこれまでとこれから

講師：大阪大学サイバーメディアセンター教授
岩居 弘樹 先生
(いわい ひろき)

【講師紹介】

大阪大学サイバーメディアセンター 教授。携帯端末・タブレット端末や Web サービスを活用したドイツ語学習の実践研究のほか、看護系大学での「複言語学習のすすめ」、大阪大学と小学校の教室を結んだ「世界のことばプロジェクト」、大阪大学市民講座「複言語学習のススメ」などを実施。「外国語の学び方を学ぶ」ことを目標にした、アクティブな外国語授業を展開している。Apple Distinguished Educator 2013。



【講演要旨】

私は現在、ドイツ語初級クラス、医療系大学向け「複言語学習のすすめ」と大学院の授業を担当しています。コロナ前は、大阪大学の豊中キャンパスと北米センターをテレビ会議で結んだ遠隔講義のコーディネーターも担当していました。

コロナ禍以降授業は Zoom を使って同時双方向で行っています。語学のオンライン授業で最も意識していることは、「だれも置いてきぼりにしない」ということ。また、語学の授業なので、「自分ひとりでも声を出す練習ができる」「グループで声を出して練習できる」という点に加えて「リアルタイムでの学習状況/理解度の把握」も重要なポイントと考え、現在でも試行錯誤を繰り返しています。

コロナ前の授業から iPad やオンラインサービスを活用した協調学習を実践していたため、突然オンライン授業になった時も特に混乱なく、Zoom を活用して対面授業とほぼ同様の授業を実施できました。Zoom については、北米センターとの遠隔講義で利用していたため、リアルタイムオンライン授業でなにができるかできないか、どのようなトラブルが起こるか、またトラブルにはどのように対処するかといった経験がある程度蓄積していました。2020年2月には、授業がオンラインになるかもしれないと考え、このノウハウを「Zoom+α」という Web ページにまとめ始め、現在に至っています：<http://osku.jp/t0585>

今回は、コロナ前の実践とコロナ禍のオンライン授業の実例をご紹介します、実際に授業で使用しているツールをいくつか体験していただきながら、オンライン授業の可能性と課題をみなさんと考えたいと思います。